

# J.LEAGUE™ NEWS

© J.LEAGUE PHOTOS



鹿島アントラーズ

© J.LEAGUE PHOTOS



柏レイソル



## 2012 Jリーグ ヤマザキナビスコカップ



FC東京



清水エスパルス

© J.LEAGUE PHOTOS

© J.LEAGUE PHOTOS

準決勝進出を果たした4チーム。写真はそれぞれの準決勝のホームゲームより

# Jリーグヤマザキナビスコカップは4強が決定

記念すべき20回目の開催。鹿島、柏、F東京、清水が準々決勝を勝ち抜き、ファイナルへ前進

2012 Jリーグヤマザキナビスコカップは決勝トーナメントに入り、ホーム&アウェイの準々決勝が7月25日、8月8日に開催された。予選リーグを勝ち抜いた4チームに、AFCチャンピオンズリーグ2012出場で予選リーグをシードされた4チームを加えた戦いで、鹿島アントラーズ、柏レイソル、FC東京、清水エスパルスが準決勝へ駒を進めた。1992年にスタートして以来、記念すべき20回目の開催を迎えたリーグカップ戦も、いよいよ佳境。9月5日(水)、10月13日(土)に、やはりホーム&アウェイで行われる準決勝を経て、11月3日(土・祝)に国立競技場が舞台となる決勝でクライマックスを迎える。(2ページに関連記事)

J.LEAGUE™ TOP PARTNERS

Calbee

Canon

KONAMI

AIDEM

Coca-Cola




J.LEAGUE™ 100 YEAR VISION PARTNER

朝日新聞

J.LEAGUE™ FAIRPLAY PARTNER

東京エレクトロン

LEAGUE CUP SPONSOR

ヤマザキナビスコ

SUPER CUP SPONSOR

FUJI XEROX

J.LEAGUE™ OFFICIAL EQUIPMENT PARTNER

adidas

J.LEAGUE™ OFFICIAL SUPPLIER

Johnson & Johnson

J.LEAGUE™ OFFICIAL BROADCASTING PARTNER

スカパー!

SPORTS PROMOTION PARTNER



J.LEAGUE™ OFFICIAL TICKETING PARTNER

ぴあ

## 株式会社ジェシービーとJリーグトップパートナー契約を締結

Jリーグは、8月21日付で2012年のJリーグトップパートナー契約を株式会社ジェシービー(本社：東京都港区、代表取締役兼執行役員社長：川西孝雄)と締結した。

Jリーグトップパートナー契約	
契約先	株式会社ジェシービー
契約期間	2012年8月21日~2013年12月31日

## 2012 Jリーグヤマザキナビスコカップは4強が決定

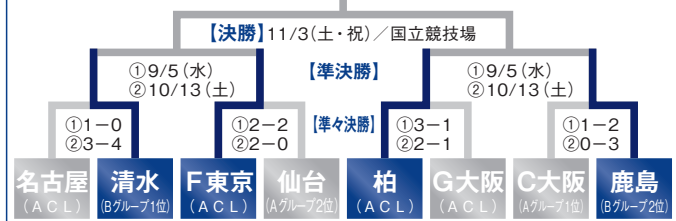
### J 2012 Jリーグ ヤマザキナビスコカップ

2012 Jリーグヤマザキナビスコカップ準々決勝がホーム&アウェイによって7月25日、8月8日に開催され、鹿島アントラーズ、柏レイソル、FC東京、清水エスパルスの4チームが準決勝へ進出した。

鹿島はC大阪に連勝し、2連覇、そして最多記録を更新する5回目の優勝へ向けて前進した。柏もアウェイ、ホームともG大阪に勝利を収めた。F東京はアウェイで仙台との第1戦を引き分け、ホームの第2戦に勝って1勝1分の成績で4強入りを果たした。また、名古屋と対戦した清水は1勝1敗で得点も並んだが、アウェイで記録した得点数で上回り、準決勝へ駒を進めた。

### 2012 Jリーグヤマザキナビスコカップ 決勝トーナメント 組み合わせ

※表の左側のチームをホームチーム扱いとする。  
(表の右側のチーム：第1戦ホームチーム / 左側のチーム：第2戦ホームチーム)



## ベトナム国プロリーグ(Vリーグ)とのパートナーシップ協定締結

Jリーグは8月7日、ベトナム国プロリーグ(Vリーグ)を運営しているベトナムプロフェッショナルフットボール(Vietnam Professional Football Joint Stock Company / 略称: VPF)とのパートナーシップ協定を締結した。Jリーグが海外のプロリーグとのパートナーシップ協定を締結するのは、ことし2月のタイプレミアリーグ(TPL)に続いて2件目。JリーグとVPFは今回の提携をきっかけに、両国のフットボール発展のためにコミュニケーション、マーケティング、大会運営、アカデミー、選手の移籍など、さまざまな分野で協力し、プロリーグの組織、マネジメントの質の向上と効率化を目指す。



調印式に出席した大東チェアマン(左)

## 「キヤノン Jリーグミュージアム 2012」大阪、名古屋開催に協力

Jリーグは、Jリーグトップパートナーのキヤノンマーケティングジャパン株式会社が主催するJリーグ写真展イベント「キヤノン Jリーグミュージアム 2012」大阪(7月19日~8月8日、キヤノンプラザ梅田)、名古屋(8月9~29日、キヤノンプラザ名古屋)の開催に協力した。



恒例の写真展。迫力あるシーンの数々を展示

## マルハンカップ 第4回パワーチェアフットボールブロック選抜大会を後援

Jリーグは8月21日に開催した理事会で「マルハンカップ 第4回パワーチェアフットボールブロック選抜大会」を後援することを決定した。本大会は、日本における電動車椅子サッカーの普及振興、およびワールドカップに向けた技術向上、選手の育成強化を図ることを目的に開催されている。

## 理事選任について

Jリーグは8月21日に臨時総会を開催し、公益財団法人 日本サッカー協会の理事である上川徹氏をJリーグ理事に選任した。

### 理事・監事一覧

理事・監事	氏名	年齢	所属
チェアマン	大東 和美(おおひがし かずみ)	63	公益社団法人 日本プロサッカーリーグ
専務理事	中野 幸夫(なかの ゆきお)	57	公益社団法人 日本プロサッカーリーグ
理事	大河 正明(おおかわ まさあき)	54	公益社団法人 日本プロサッカーリーグ
理事	中西 大介(なかにし だいすけ)	47	公益社団法人 日本プロサッカーリーグ
理事	井畑 滋(いはた しげる)	60	株式会社 鹿島アントラーズ・エフ・シー 代表取締役社長
理事	上西 康文(うえにし やすふみ)	56	白百合女子大学 事務局長
理事	大塚 唯史(おおつか ただし)	51	アビスパ福岡株式会社 代表取締役社長
理事	金森 喜久男(かなもり きくお)	63	株式会社 ガンバ大阪 代表取締役社長
※理事	上川 徹(かみかわ とおる)	49	公益財団法人 日本サッカー協会 理事 / 審判委員長
理事	亀井 文雄(かめい ふみお)	58	株式会社 愛媛FC 代表取締役社長
理事	武田 信平(たけだ しんぺい)	62	株式会社 川崎フロンターレ 代表取締役社長
理事	田中 道博(たなか みちひろ)	54	公益財団法人 日本サッカー協会 専務理事
理事	橋本 光夫(はしもと みつお)	63	浦和レッドダイヤモンズ株式会社 代表取締役社長
理事	原 博実(はら ひろみ)	53	公益財団法人 日本サッカー協会 理事 / 技術委員長(強化)
理事	福島 義広(ふくしま よしひろ)	61	株式会社 名古屋グランパスエイト 代表取締役副社長
理事	傍士 銃太(はうじ せんた)	56	一般財団法人 日本経済研究所 専務理事
理事	宮 裕(みや ゆたか)	57	有限責任 あざさ監査法人 パートナー・公認会計士
理事	村井 満(むらい みつと)	53	RGF Hong Kong Limited(リグルトアジア統括法人) 取締役社長
理事	ヨコ ムツタツランド	43	有限会社 オフィスブロンズ 取締役社長
監事	味村 隆司(あじむら たかし)	53	株式会社 日本国際映画著作権協会 代表取締役
監事	吉田 修己(よしだ おさみ)	61	有限責任 監査法人 トーマツ

太宰：2012年8月21日 選任 ※印 新任 敬称略 年齢は2012年8月21日時点  
\*なお、Jリーグ理事である松崎康弘氏が8月21日付で退任した。

## 鹿島が南米の強豪を下す。日本勢が3連覇を達成

「スルガ銀行チャンピオンシップ 2012 IBARAKI Jリーグヤマザキナビスコカップ/コパ・プリヂストン・スタメリカーナ 王者決定戦」が8月1日、県立カシマサッカースタジアムで開催され、鹿島アントラーズがユニベルシダ・デ・チリ(チリ)を破って初優勝を飾った。鹿島は前半にDF若政大樹、MFレナトが得点してリード。後半に追い付かれて90分間を2-2のスコアで終え、PK戦を7-6で制した。

日本勢は一昨年のFC東京、昨年のジュビロ磐田に続き3連覇を達成。大会が始まった2008年以来的の通算成績を3勝2敗とした。



優勝の喜びに沸く鹿島の選手とチームスタッフ

## Jリーグ「暴力団等排除宣言」イベントを実施

Jリーグは8月8日、味の素スタジアムで開催された2012 Jリーグヤマザキナビスコカップ準々決勝第2戦のFC東京vsベガルタ仙台において、Jリーグと警視庁、F東京が連携し、Jリーグ関係者およびファン・サポーターの一層の暴力団排除機運を高めることを目的に、「暴力団等排除宣言」イベントを実施した。

当日はキックオフ前に、警視庁広報PR活動、警視庁音楽隊演奏・行進、選手入場ファンファーレが行われ、樋口建史警視総監が始球式を実施。ハーフタイムには白バイの先導で、警視庁組織犯罪対策部幹部および、警視庁マスコットのピーボくんファミリーが「暴力団排除横断幕」を持ってピッチレベルの人工芝上を周回した。



コミュニティーの安心とスポーツの価値を守るための環境づくり

# 「Gothia Cup 2012」参加。 ピッチ内外で貴重な経験

ことしから始まった「Jリーグアカデミー カルビーグローバルチャレンジ」で、東京ヴェルディユース(U-16)がスウェーデンで開催された国際大会に参加。ピッチ内外でさまざまな経験を積んだ選手たちの、現地での様子をレポートする。



開会式では浴衣を着て日本をアピール。写真は開会式終了後

## グループリーグは1位通過

サッカーとはコミュニケーションのスポーツ。サッカーとは国際的なスポーツ。あらためてサッカーというスポーツが持つ力、意義を感じることができた。

スウェーデン第二の都市、イエテボリで毎年7月に開催されている「Gothia Cup」。72カ国、男女合わせて1,625ものチームが集結し、試合と国際交流を行う、世界最大級の国際ユース大会。この大会に今回、日本勢初出場として、東京ヴェルディユース(U-16)が参加。これはJリーグとJリーグトップパートナーであるカルビー株式会社が協力し、若者の世界挑戦をサポートする「Jリーグアカデミー カルビーグローバルチャレンジ」の記念すべき第1回として、2011 Jリーグアウォーズで最優秀育成クラブ賞を受賞した東京Vユースが派遣されたもの。

「あくまで自分たちがファイナルまで行くことをイメージして戦うことを意識し、ファイナルでの戦いをイメージしてやってほしいと伝えました。僕もそのイメージを持って、臨んでいます」

今回、チームの指揮を執った菅原智コーチがはっきりと言ったように、初出場初優勝と明確な目標を持って臨んだ東京Vユースは、初戦から自分たちの持ち味である個の技術の高さと、正



決勝トーナメントの初戦、安在は貴重な追加点のアシストなど活躍



お世話になった地元の家族と交流。ピッチ内外で国際経験を積んだ

確なパスワークで相手を翻弄し、グループリーグ3戦を9-0、6-0、3-0と圧勝して1位通過。

「3連勝しましたが、相手に引かれた時に、なかなか点が入らないので、そこでサイドを使ったり、そこから中をうまく引き出したり、ボールを真ん中でうまくつないでからサイドを使ったりと、もっとボールの出し入れをして、崩していきたい」(MF井上潮音)

## 肌で感じた外国選手との違い

グループリーグは相当な実力差があったのは確か。それでも選手たちに浮かれた様子はなく、ファイナルをイメージし、気を引き締めていた。その通り、決勝トーナメントは一気にレベルが上がった。初戦で初失点を喫したが、4-1で勝利。ラウンド32でも一度は追いつかれるが、再び4-1の勝利。しかし、ラウンド16で落とし穴が待っていた。地元スウェーデンの強豪クラブ、IFエルフスボルクに今大会初めて先制点を奪われると、一度は追いつくが、後半アディショナルタイムにセットプレー崩れから失点。1-2で敗退を喫した。

「優勝を狙う気持ちが足りなかった。ハーフタイムに菅原さんに言われて気付いている状況でした。相手は球際がみんな強くて、競り合いに対しても絶対に負けないし、一瞬の隙を突いてくる強さを感じました。その中で自分たちのミスが出てしまった。中途半端になってしまい、判断が曖昧になってしまった。ボールが来る前にもっとしっかりと判断できていれば」と、MF神谷優太が唇をかんだように、決勝トーナメントでの4失点はいずれもミスから。その中にはかなりイージーなミスもあった。負けた試合も、ひいき目なしで東京Vユースの方が実力は上だった。これは裏を返せば、一瞬の隙を見逃さない海外チームのしたたかさ、チャンスを確実にものにしていく強さであった。

「クルゼイロ(ブラジル)は一つ一つの技術がしっかりしている。日本の選手は周りを少ししか見ていないけど、クルゼイロの選手たちはすごく周りを見

## 「Jリーグアカデミー カルビーグローバルチャレンジ」

Jリーグが、Jリーグトップパートナーのカルビー株式会社との協力を得て設立した。カルビー(株)は、日頃から社会貢献のミッションとして、地域社会のみならず、「全世界の共同社会に貢献」することを掲げている。このプログラムは、カルビー(株)とJリーグによる、国際親善と次世代育成をテーマとしたパートナーシッププログラムとして、Jリーグアカデミーが目指す「世界で活躍する選手の育成および強化」の促進を目的としている。設立初年度のことは、2011 Jリーグアウォーズで最優秀育成クラブ賞を受賞した東京ヴェルディユース(U-16)を、スウェーデンで開催された「Gothia Cup 2012」(7月15~21日)に派遣した。

てやっている。足元に(ボールを)付けるのか、前に出すのか、トラップ一つにも質の差を感じたし、もっと自分もはっきりとプレーできるようにならないといけないと思いました」(神谷)

選手たちはそれを自身の試合で感じただけでなく、クルゼイロなどの強豪チームの試合を見ることでも感じる事ができた。

## ピッチ外でも個性を発揮

ピッチ内でつかんだ確かな経験。この大会はそれだけでなく、ピッチ外の経験も非常に意義のあるものであった。イエテボリ市内の体育学校でさまざまな国々、年代の選手たちと共同生活を送り、現地在住の日本人の方々を通じて、イエテボリという街、現地の人たちと触れ合い、何より洗濯や移動など、選手たちとスタッフが協力し合って、日常生活を過ごすことができた。

日に日に選手たちの表情が明るくなっていくのが分かったし、「やっぱりどンドン話掛けて、交流しないとだめでしょう」と、GK山下貴志を筆頭に、積極的にコミュニケーションを図る選手が出てきた。FW安在達弥やDF勝呂智哉はムードメーカーになり、MF三竿健斗は試合後のインタビューにも流ちょうな英語で答えるなど、選手それぞれの個性も出ていた。

「1試合1試合、選手たちが成長していることが分かりました。負けてしまいましたけれど、常に勉強だと思えば、こうした素晴らしい大会で選手たちがその瞬間で何かを感じて、ものにしてくれれば。日本でこういう大会は経験できないので、本当に光栄なことだと思うし、選手たちもいい経験になったと思います」(菅原コーチ)

結果はベスト16だったが、プレー、生活の両面で多くのものを得ることができた。国境、人種、文化、宗教を超えて、未来ある子どもたちがサッカーという名のもとに集結し、戦いながらも、ともに生活を送り交流をする。今回の「Jリーグアカデミー カルビーグローバルチャレンジ」による「Gothia Cup 2012」出場は、サッカーの奥深さ、そしてこうした場に飛び出して行くことの重要性を、あらためて教えてくれた。

(サッカージャーナリスト 安藤 隆人)

# 2011年度Jクラブ経営情報開示

JリーグはJクラブ経営の透明性向上のため、2005会計年度分より、クラブ別の個別情報を発表している。06会計年度からは、全クラブの全ての項目が開示されるようになった。

- ## 1. 2011年の主なトピック
- 2010年度から1クラブ増(ガイナレ鳥取が新入会)。J1 18クラブ、J2 20クラブの38クラブ構成。
  - 3月11日に発生した東日本大震災に伴う影響
    - 約1カ月間の中断
    - 試合開催日の移動  
中断期間分(3月・4月)の試合を、梅雨時期・夏場(6月・7月)へ移動  
そのうち土・日開催→平日開催への移動：J1 9試合、J2 40試合
    - Jリーグヤマザキナビスコカップの大会フォーマット変更  
「予選リーグ+決勝トーナメント」→「トーナメント」への変更。全体で24試合減
  - 平均入場者数減少に伴う、入場料収入の減少
    - 入場料収入が多いクラブに、前年比減収が多く見られ、全体を押し下げている。
    - 2012年は、J1の入場者数は持ち直しつつある。  
一方でJ2入場者数はクラブ間格差が増大しつつある。
  - チャリティーマッチ(3月29日)、積極的な震災復興支援など、サッカーの持つ「力」を世の中に示せた1年
    - Jクラブ全体の広告料収入総額は踏みとどまった。  
・前年比マイナスのクラブがあった一方、前年から伸びたクラブも多かった。  
・Jクラブの存在意義が評価され、継続的にご支援いただいている。
- ## 2. 2011年度開示資料の特徴
- 情報としての有用性の向上
    - クラブ間の「情報の横展開」を可能にし、クラブの努力目標(ターゲット)を設定しやすい。
    - より明確な科目体系に変更
      - クラブの収益構造がより理解できる科目構成とした。
      - 「アカデミー・育成」に関する収入、費用を項目として独立させ、分かりやすくした。(育成はJリーグ百年構想を支える一つの柱であるというスタンスの明確化でもある)
    - クラブが置かれている立ち位置を把握しやすくする。
      - 自クラブが他クラブに対して優れている点、努力が必要な点分かる。
      - 他クラブとの比較を通じて、クラブのベンチマーク(数値目標)がわかりやすくなる。
  - クラブ経営の透明性の向上
    - 開示科目数の増加
      - クラブライセンス制度により、全クラブで「公認会計士または監査法人による監査」が義務化
        - 独立の監査人による監査を受けることで、決算の信頼性が高まる。
        - 財務状況の積極的開示により、サッカー界に対する透明性と信頼性を高める。

## 3. Jクラブ全体の収入規模概況(2001年度～)

	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
合計	531	537	558	601	661	691	739	765	755	721	728	754
(広告料収入)	267	249	247	255	296	324	330	333	335	330	333	351
(入場料収入)	110	108	114	124	136	139	151	154	156	155	141	164
(配分金)	52	70	76	83	75	71	76	75	71	72	71	67
(その他)	102	110	121	139	154	157	182	203	193	164	183	172

【予算】

	2012
合計	754
(広告料収入)	351
(入場料収入)	164
(配分金)	67
(その他)	172

(1) 東日本大震災があったものの、クラブ全体の収入規模は前年(2010年度)の水準を維持  
 (2) 広告料収入はこの5年間は安定的に推移  
 (3) 入場料収入の減少を他の売り上げがカバーした形となっている(入場料収入回復に向けた取り組みは別途必要)。

	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
J1	16	16	16	16	18	18	18	18	18	18	18	18
J2	12	12	12	12	12	13	13	15	18	19	20	22
J1平均入場者数	16,548	16,368	17,351	18,965	18,765	18,292	19,066	19,202	18,985	18,428	15,797	18,955
J2平均入場者数	5,703	6,842	7,895	7,213	7,482	6,406	6,521	7,072	6,326	6,696	6,423	7,040

※賞金は配分金に含む  
 ※2012年度はクラブで賞金がほとんど予算化されていないため、賞金総額を配分金の欄に算入

## 4. 前年(2010年度)との比較

	2010	2011	主な要因
合計	721	728	
(広告料収入)	330	333	
(入場料収入)	155	141	入場者数減少(10.5%)に伴う、9.1%の減収
(配分金)	72	71	
(その他)	164	183	移籍金収入+10億円の他、アカデミー関連収入などが増収
J1全体	545	524	
(広告料収入)	243	236	FC東京の降格により、J1で減、J2で増となる現象が起きた。
(入場料収入)	123	108	①前年比1億円以上の減収が5クラブ ②降格3クラブ(F東京・湘南・京都)と昇格3クラブ(柏・甲府・福岡)との差額分による減少
(配分金)	52	51	
(その他)	127	129	移籍金収入+4億円など
J2全体	175	204	
(広告料収入)	86	96	FC東京の降格により、J1で減、J2で増となる現象が起きた。
(入場料収入)	32	33	降格3クラブ(F東京・湘南・京都)と昇格3クラブ(柏・甲府・福岡)との差額分、および、他クラブの増収分が、減収クラブ分を吸収
(配分金)	20	30	
(その他)	37	55	移籍金収入+6億円、スクール収入+2億円など

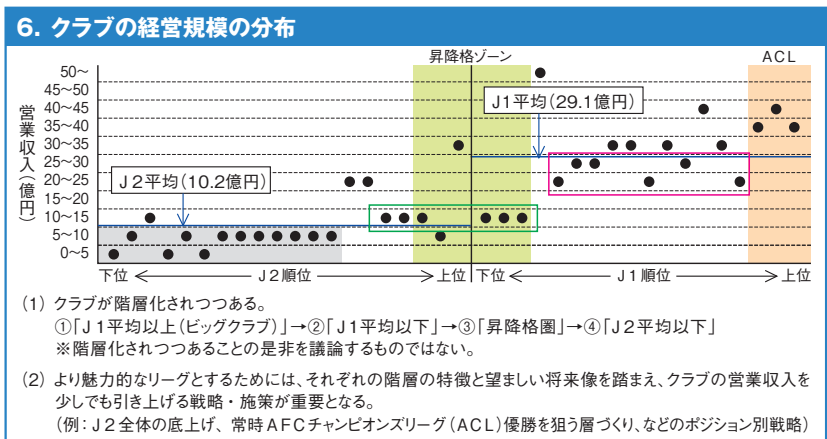
(億円) ※端数調整による誤差あり

## 5. 「債務超過」と「3期連続赤字」のクラブ

(年度)	2007	2008	2009	2010	2011
赤字決算	8	15	14	18	18
J1	5	8	6	10	8
J2	3	7	8	8	10
3期以上連続赤字	2	2	3	4	4
J1	1	2	1	1	2
J2	1	0	2	3	2
債務超過	7	9	8	10	11
J1	4	4	4	4	3
J2	3	5	4	6	8
総クラブ数	31	33	36	37	38
J1	18	18	18	18	18
J2	13	15	18	19	20

2011年度の動き  
 「3期以上連続赤字」解消：2  
 「債務超過」解消：2  
 「3期連続赤字」になった：2  
 「債務超過」になった：3

●2014年度決算(2014年12月末～15年3月末：クラブにより決算期が異なる)までに、「債務超過」「3期以上連続赤字」の、いずれの状態でもないようにすることが、クラブライセンス上の必須要件となっている。  
 ●上記いずれかに該当するクラブは、計画を策定の上、取り組みに着手している。



- ## 7. 今後に向けて
- クラブライセンス制度に基づく、財務体質の全体的強化
    - 債務超過解消、コンスタントな単年度黒字化
      - スポンサーなどから安心して投資してもらえるクラブづくり
      - 財政的余力をつくり、いざというときに投資や勝負ができるような経営戦略の立案
    - 予算編成から期中の実績管理に至る、財務コントロール
      - クラブの「健康状態」を定期的に細かく把握するガバナンス体制の強化
  - クラブ全体の収入合計(マーケット規模)の拡大
    - 「収入の柱」である広告料収入、入場料収入の安定的拡大
      - 情報の横展開による、クラブ間でのノウハウ共有の強化
      - Jリーグ全体で目標を具体的に定め、取り組んでいく必要性
    - 収入拡大のための戦略の策定
      - Jリーグ、クラブのそれぞれ、または両方で、やるべきことの整理と実践

2011年度Jクラブ決算一覧

(単位:百万円)

クラブ名	J1																			J1合計	J1平均
	山形	仙台	鹿島	浦和	大宮	柏	川崎F	横浜FM	甲府	新潟	清水	磐田	名古屋	G大阪	C大阪	神戸	広島	福岡			
決算期	2012年1月期	2012年1月期	2012年1月期	2012年1月期	2012年1月期	2012年3月期	2012年1月期	2012年1月期	2012年1月期	2011年12月期	2012年1月期	2012年3月期	2012年1月期	2012年1月期	2012年1月期	2011年12月期	2012年1月期	2012年1月期			
<b>■損益総括</b>																					
営業収益	1,239	2,097	4,165	5,382	2,775	3,543	3,275	3,463	1,465	2,227	3,118	3,151	4,196	3,817	2,527	2,059	2,676	1,246	52,421	2,912	
広告料収入	258	682	1,839	1,821	1,924	1,878	1,738	1,197	635	919	1,228	1,695	2,136	1,739	1,361	708	1,439	441	23,638	1,313	
入場料収入	282	689	754	1,918	325	496	554	795	421	701	522	424	814	597	449	392	458	308	10,899	605	
Jリーグ配分金	222	238	252	268	218	230	213	254	216	219	237	227	239	223	223	206	232	207	4,124	229	
アカデミー関連収入	50	67	233	21	150	74	157	425	29	118	295	31	250	117	20	219	108	144	2,508	139	
その他収入	427	421	1,087	1,353	158	865	613	792	164	270	836	774	757	1,141	474	534	439	146	11,251	625	
営業費用	1,268	2,038	4,378	5,290	2,770	3,391	3,212	3,975	1,400	2,270	3,191	2,919	4,231	3,745	2,570	2,149	2,671	1,122	52,590	2,922	
チーム人件費	706	1,007	2,066	1,886	1,314	1,919	1,587	1,441	671	809	1,376	1,299	2,167	2,010	1,185	1,010	1,324	428	24,205	1,345	
試合関連経費	97	117	360	615	313	153	165	322	84	276	192	323	316	334	348	186	218	101	4,520	251	
トップチーム運営経費	108	150	351	364	354	268	239	405	149	256	195	258	491	336	184	243	250	157	4,758	264	
アカデミー運営経費	62	71	144	67	61	36	95	295	17	117	127	47	174	80	56	100	125	71	1,745	97	
女子チーム運営経費	0	0	0	55	0	0	0	0	0	26	0	0	0	0	7	0	0	0	88	5	
販売費および一般管理費	293	693	1,457	2,302	728	1,015	1,126	1,511	479	786	1,301	992	1,083	985	790	610	754	365	17,270	959	
営業利益	▲27	59	▲213	92	5	152	63	▲512	65	▲43	▲73	232	▲35	72	▲43	▲90	5	124	▲167	▲9	
営業外収益	0	23	28	8	2	30	18	1	4	131	13	31	28	92	0	42	4	17	476	26	
営業外費用	0	1	2	12	6	21	0	7	8	9	4	12	12	59	6	68	15	10	256	14	
経常利益	▲27	81	▲187	88	1	161	81	▲518	61	79	▲64	251	▲19	105	▲49	▲116	▲6	131	53	3	
特別利益	0	80	0	0	0	2	0	0	24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	106	6	
特別損失	0	44	46	13	0	0	0	67	0	0	6	1	48	0	5	16	0	0	246	14	
税引前当期利益	▲27	117	▲233	75	1	163	81	▲585	85	79	▲70	250	▲67	105	▲54	▲132	▲6	131	▲87	▲5	
法人税および住民税	0	58	▲13	14	1	▲1	39	0	41	7	7	64	▲2	58	0	1	1	1	276	15	
当期純利益(損失)	▲27	59	▲220	61	0	164	42	▲585	44	72	▲77	186	▲65	47	▲54	▲133	▲7	130	▲363	▲20	
<b>■貸借対照表</b>																					
資産	133	924	847	338	409	240	864	475	409	580	331	761	447	798	394	621	690	229			
固定資産	28	394	1,295	959	567	1,854	98	162	164	342	762	421	245	520	300	288	272	286			
資産の部 合計	161	1,319	2,142	1,297	976	2,094	962	637	573	922	1,093	1,182	692	1,318	694	909	962	515			
負債	122	568	484	862	920	1,100	350	1,544	271	458	386	581	199	1,048	490	275	821	200			
流動負債	90	109	78	59	46	10	31	141	25	83	299	78	139	41	89	1,590	68	98			
固定負債	212	678	562	921	966	1,110	381	1,685	296	541	686	659	338	1,089	579	1,865	889	298			
負債の部 合計	212	678	562	921	966	1,110	381	1,685	296	541	686	659	338	1,089	579	1,865	889	298			
純資産	▲51	640	1,580	376	10	984	581	▲1,048	276	381	407	523	354	229	115	▲956	73	217			
資本	0	453	1,570	160	100	100	349	31	367	712	550	679	400	10	315	98	2,110	125			
資本準備金等	0	0	147	0	240	932	31	6	0	0	0	0	0	0	0	561	0	196			
繰越利益剰余金	▲51	186	▲137	216	▲330	▲48	201	▲1,085	▲91	▲331	▲142	▲156	▲46	219	▲200	▲1,615	▲2,037	▲104			
資本(純資産)の部 合計	▲51	640	1,580	376	10	984	581	▲1,048	276	381	407	523	354	229	115	▲956	73	217			

クラブ名	J2																			J2合計	J2平均	
	札幌	水戸	栃木	草津	千葉	F東京	東京V	横浜FC	湘南	富山	岐阜	京都	鳥取	岡山	徳島	愛媛	北九州	鳥栖	熊本			大分
決算期	2011年12月期	2012年1月期	2012年1月期	2012年1月期	2012年1月期	2012年1月期	2012年1月期	2012年1月期	2012年1月期	2012年1月期	2012年1月期	2011年12月期	2012年1月期	2012年1月期	2012年1月期	2011年12月期	2012年1月期	2012年2月期	2012年1月期	2012年1月期		
<b>■損益総括</b>																						
営業収益	1,297	436	748	562	2,422	3,334	1,075	1,046	670	574	448	2,140	610	797	967	499	521	689	631	960	20,426	1,021
広告料収入	399	135	306	213	1,622	1,336	522	643	227	327	153	1,395	193	362	603	175	176	253	244	392	9,676	484
入場料収入	310	60	113	78	368	551	182	147	168	49	59	199	97	127	90	53	78	166	84	325	3,304	165
Jリーグ配分金	102	105	95	93	108	110	89	99	91	89	106	100	104	93	97	96	91	99	103	92	1,962	98
アカデミー関連収入	41	37	44	49	44	355	85	31	0	34	31	131	36	36	44	51	34	37	26	59	1,205	60
その他収入	445	99	190	129	280	982	197	126	184	75	99	315	180	179	133	124	142	135	174	92	4,280	214
営業費用	1,383	387	804	598	2,200	3,063	1,069	1,027	991	628	510	1,896	572	808	936	504	584	826	702	843	20,331	1,017
チーム人件費	513	152	332	204	1,003	1,427	300	478	511	246	192	895	220	363	490	206	222	353	257	293	8,657	433
試合関連経費	205	34	81	52	162	305	141	75	62	55	43	174	53	57	45	18	49	48	50	67	1,776	89
トップチーム運営経費	166	54	118	108	216	198	256	149	70	111	54	156	53	99	112	70	82	101	129	107	2,409	120
アカデミー運営経費	56	8	26	51	35	239	38	21	0	16	18	126	24	16	19	8	16	20	0	68	805	40
女子チーム運営経費	0	0	0	0	36	0	19	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	25	0	81	4	4
販売費および一般管理費	443	139	248	183	748	894	315	304	348	200	203	545	222	273	271	201	215	304	242	308	6,606	330
営業利益	▲86	49	▲56	▲36	222	271	6	19	▲321	▲54	▲62	244	37	▲11	31	▲5	▲63	▲137	▲71	117	94	5
営業外収益	115	0	0	17	4	10	0	2	14	1	1	24	0	0	8	0	0	37	3	9	245	12
営業外費用	9	2	0	3	13	37	0	4	7	0	10	14	2	4	2	2	8	1	4	124	6	6
経常利益	20	47	▲56	▲22	213	244	6	17	▲314	▲53	▲71	254	35	▲15	37	▲7	▲65	▲107	▲69	122	216	11
特別利益	1	13	0	0	2	0	0	0	188	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	13	220	11
特別損失	2	54	0	1	134	0	0	1	4	0	0	0	1	0	2	0	0	252	0	0	451	23
税引前当期利益	19	6	▲56	▲23	81	244	6	16	▲130	▲53	▲71	254	35	▲15	35	▲7	▲65	▲357	▲69	135	▲15	▲1
法人税および住民税	2	0	1	1	35	105	0	1	0	0	0	1	1	1	13	0	0	0	0	1	162	8
当期純利益(損失)	17	6	▲57	▲24	46	139	6	15	▲130	▲53	▲71	253	33	▲16	22	▲7	▲65	▲357	▲69	134	▲178	▲9
<b>■貸借対照表</b>																						
資産	764	144	91	67	384	1,346	188	123	133	98	62	985	76	217	471	150	63	128	100	133		
固定資産	83	9	27	11	1,003	351	27	164	104	6	8	174	54	29	152	63	51	114	36	67		
資産の部 合計	847	153	119	78	1,387	1,698	215	287	237	104	70	1,159	131	246	623	213	114	241	136	200		
負債	244	103	108	180	582	535	196	164	245	33	180	710	52	219	146	30	100	447	178	736		
流動負債	683	30	6	0	500	0	12	97	75	1	37	424	43	5	20	0	50	92	7	382		
固定負債	927	133	114	180	1,082	535	208	261	320	34	217	1,134	95	224	167	30	150	539	185	1,118		
負債の部 合計	927	133</																				

## Jクラブと歩む「地域」「ひと」

31

サンフレッチェ広島



## 地道な取り組みがファミリーの輪を拡大。子どもたちに有形無形の財産を残す

### 活動を通じて夢や希望を

選手と子どもたちがボールを蹴り合い、一緒に机を囲んで給食を食べる。今やサンフレッチェ広島と広島県内の小学生たちには、欠かせないイベントがある。「ホームタウンふれあい活動」。子どもたちにとって憧れの選手たちと楽しいひとときを過ごせる、貴重な時間となっている。

サンフレッチェ広島が県内市町村の教育委員会と協力し、活動を開始したのは2006年。それ以前も育成部門のスタッフが学校を訪れ、サッカー教室を行ってはいた。ただ単発的なもので、選手が参加することもなかった。地域貢献の新たな形を模索する中で、他クラブの取り組みも参考に現在の活動に行き着いた。

企画広報部の森脇豊一郎部長は、趣旨について次のように説明する。「活動を通じて子どもたちに夢や希望を持ってもらい、健全な育成に寄与することで地域に貢献していくこと。また選手が社会貢献活動への理解を深めるとともに、一人でも多くの子どもたちにサンフレッチェに親しみを覚えてもらうこと」。

基本的に年2回、全選手が参加して行われる。当初、対象は広島市内の小学校だけだったが、「ぜひうちにも来てほしい」との声が各地から上がったという。このため活動範囲を広島県内とともに、隣接する山口県岩国市まで拡大。これまでに広島市内の125校と市外の29校、計154校を訪問した。

### 選手の礼儀正しさに感銘

こしは1月20日と7月18日に実施。選手と

ユースなど育成部門のコーチが数グループに分かれ、小学校を訪問した。特に7月18日は、サンフレッチェがシーズン中盤以降では18年ぶりに首位に立った直後だっただけに、大いに盛り上がった。

対象となったのは広島市内の7校をはじめ、計11校。その一つが福山市の緑丘小学校だった。同市は県の東端に位置し、広島市まで電車で1時間半かかる。普段はホームスタジアムの広島ビッグアーチ（広島市安佐南区）まで試合観戦に行くことが難しいだけに、学校側は訪問を大歓迎する。

萩原由紀子校長は言う。「サッカーをやっている子どももいるけれど、ビッグアーチまで遠いので観戦に行ける子は少ない。また、サッカーをやっていない子どもたちも、“本物”を見ることができて喜んでいました。本当にいい活動だと思います」。

この日、児童たちと交流したのは、福山市出身の森脇良太ら3選手。萩原校長はプロの卓越した技術を身近に感じられたこと以上に、選手の礼儀正しい態度に感銘を受けたという。

萩原校長によると活動終了後、お茶をつぐうとした際に森脇選手が「いやいや結構です」と自ら周囲の人について回った。またスリッパを脱いだ際に向きを変え、そろえて置いたという。「行儀がいいというか、トップアスリートは普段の生活態度からしっかりしている。子どもたちのいいお手本になりました。1学期の終業式で子どもたちにも伝えましたし、学校便りにも書いた



広島が首位に立った直後に行われた「ふれあい活動」は、大いに盛り上がった。写真中央は増田卓也選手 ©2012 S.F.C

ところ、スリッパをそろえる保護者も増えました」と、教育面でも高い効果があることを力説する。

### 「ふれあい活動」からJの舞台へ

また活動を通じてサンフレッチェへの憧れを強め、育成組織の門をたたいた選手もいる。広島ユースに所属する野津田岳人選手だ。広島市出身で小学6年の時、「ふれあい活動」に参加。どうしても大好きな佐藤寿人選手と話がしたいと、給食の時に隣の席を確保した。そして佐藤選手が飲んだ牛乳の紙パックを持ち帰り、「宝物」にしたというエピソードがある。

「あの時の感動は今でも覚えている。いつか寿人さんに近づきたい、寿人さんのようなプロ選手になりたいという思いが強くなった」と打ち明ける。

野津田選手はこし、2種登録され、3月17日のJ1リーグ戦、清水エスパルス戦で念願の公式試合デビューも果たした。来シーズンのトップチーム昇格の可能性も高く、「ふれあい活動」から初のプロ選手が誕生することも夢ではなくなった。

これこそが、「夢や希望を与える」という目標の一つの理想形である。また、サンフレッチェが掲げる「育成型クラブ」という哲学にもつながっていく。一方で、サッカーをやっていない子どもたちも、選手との触れ合いを通じてサッカーやサンフレッチェに関心を持ち、ビッグアーチに足を運ぶこともあるという。

憧れの選手が小学校に出向き、児童に有形無形の財産を残す。その中からサポーターや未来のサンフレッチェ戦士が生まれる。地道な取り組みは着実にサンフレッチェファミリーの輪を広げている。

(中国新聞社 日野 淳太郎)



佐藤選手(中央)ら、トップチームの選手が小学校を訪問。子どもたちにとっては楽しく、貴重なひとときだ

©2012 S.F.C

「豊かで充実したスポーツ環境を実現し、地域に根差したスポーツクラブを中心に、日本にスポーツ文化を育む」ことを目指す「Jリーグ百年構想」のもと、Jクラブはそれぞれのホームタウンを中心に、さまざまな取り組みを行っている。そして、Jクラブの存在、活動は、地域とそこに暮らす人々に影響、刺激を与え、新たなムーブメントを生んでいる。Jクラブと手を携えながら、ともに歩む人々や、その活動を紹介するこのシリーズ。今号ではサンフレッチェ広島、カターレ富山と連携した地域の取り組みにスポットを当てた。



32

カターレ富山



## サポーターとクラブが心を一つに。 スタジアム内外でさまざまな試み



13市町がグルメ販売ブースを出店したT-1グランプリ会場



立山連峰をイメージしたオリジナルゴールネット

### 県内特産グルメが集結

松本山雅FCをホームの富山県総合運動公園陸上競技場に迎えた8月12日。メインスタンドの入場ゲート前はおいしそうな香りに包まれ、小腹をすかせたファン・サポーターらが長い列を作った。「ホームタウンデー」のこの日、メインイベントとして開催されたのは、県内各地の特産品グルメを集め、その味やPR度などを競う「T-1グランプリ」。県内13市町が出店し、ご当地グルメを自慢した。

T-1グランプリの開催は昨年へ続き2度目。県内で各市町村の特産品が一堂に会すイベントは珍しく、今回は昨年を上回る自治体が出品。それぞれの特産品を使ったお好み焼きや肉料理、麺類、揚げ物、ビール、サイダーなど約30種類がずらりと並び、来場者は次々と食べ比べを楽しんだ。

一つの対象商品につき、投票パー1本が渡され、人気投票を実施。グランプリに輝いたのは、434票を獲得した滑川市の「深層水入り白エビとんかつ焼き」で、圧倒的な人気で2連覇を果たした。販売元の有限会社とやまふるさとセンターの相川隆二さんは「多くの人に深層水や白エビに興味を持ってもらえた。良いPRの場であるとともに、サッカーファンとの交流も深められた。次回も3連覇を目指して参加したい」と話した。



相川隆二氏

他にも、「次はもっとおいしいものを…」とすでに来年を見据える団体もあり、次回はより白熱した勝負が期待できそうだ。

### サポーターがゴールネット寄贈

同じく8月12日の松本戦で、真新しいゴールネットが使用され始めた。カターレカラーである青と白の2色を使用し、富山が世界に誇る「立山連峰」をイメージしたデザインに仕上がっている。

ゴールネットの製作を企画したのは、サポーター有志でつくる「カターレブルーネットプロジェクト」(杉山茂久代表)だ。「ホームスタジアムに『カターレブルー』のゴールネットを設置し、選手を後押ししよう」と発足した。ホームゲームなどで来場者に協力を呼び掛けたり、ブログで活動を報告したりして製作費に充てる寄付を募集。3月1日から同月末までに、目標の40万円を大きく上回る約61万円が集まった。

6月2日には、寄贈するゴールネットの染色作業が行われた。プロジェクトに寄付したサポーターらが続々と集まり、立山をイメージしたデザイン通りに、白いゴールネットを青に着色。カターレのMF朝日大輔ら8選手も参加し、和気あいあいと作業が進められた。杉山代表は「独自のゴールネットを使っているチームは他にもあるが、ファンの手作りはない。カターレのホームゲームが盛り上げられたい」と話した。



杉山茂久氏  
©カターレ富山

地元企業もプロジェクトに協力し、株式会社泰東、第一編物株式会社が製作を担当した。7月20日は富山市内の神社で必勝祈願祭を行い、杉山代表の他、清原邦彦代表取締役社長、安間貴義監督、主将のDF足助翔らが

ゴール量産と勝利を願った。足助は「サポーターの気持ちに応じて試合でネットを揺らしたい」と感謝した。松本戦では前半3分にMF大西容平がいきなりの先制点を奪い、オリジナルゴールの力を感じさせた。

なかなか勝ち切れない苦しいゲームを強いられている今シーズンとあって、選手とサポーターが心一つにして戦っていることを示すものとなっている。

### 美少女ダンスチーム躍動

さらに、会場の雰囲気盛り上げるダンスチーム「Leap-Blue(リープブルー)」が始動した。3月にメンバーを募集し、県内でダンスに取り組んでいた小学1年生から高校2年生までの33人がそろった。プロダンサーとして有名アーティストの振り付けなどを担当したMIDORIさん(富山市出身)の指導のもと、4月から毎週厳しい練習に汗を流してきた。

7月には市民からチーム名を公募し、寄せられた約40候補の中から選手やスタッフらを選考した「Leap-Blue」に決まった。「飛躍」を意味する「Leap」と、カターレのクラブカラー「Blue」が掛け合わされている。

お披露目となった8月12日の松本戦では、青と白の衣装に身を包み、試合直前のフィールドに登場。笑顔と躍動感あふれるダンスを繰り広げ、スタジアムのボルテージを最高潮に上げた。ダンスチームはホームゲームの他、PR活動やスポンサーイベントなどにも協力していく予定。スタジアム内外で新たな応援スタイルを確立していく。

(北日本新聞社 石川 雅浩)



躍動感あふれるダンスを繰り広げる「Leap-Blue」

## U-16・U-15・U-14・U-13 2012 Jリーグ選抜 韓国／ブラジル／中国／タイ 海外キャンプに派遣

Jリーグは7月から9月にかけて、U-16 Jリーグ選抜を韓国、U-15 Jリーグ選抜をブラジル、U-14 Jリーグ選抜を中国、U-13 Jリーグ選抜をタイへ派遣した。この海外キャンプは、U-16は3回目、U-15は8回目、U-14は5回目、U-13は4回の実施となる。

海外キャンプは、Jクラブのアカデミーに所属する選手を選抜し、国際試合の経験を通じて競技力向上の機会とするだけでなく、世界基準でJクラブのアカデミー選手のレベルを把握し、今後の選手育成・指導に役立てる。また、海外の文化に触れ、現地の人々との交流などを通じて豊かな人間性を育むことも目的としている。

今回の海外キャンプの先陣を切ったのは、7月30日～8月3日にタイの首都バンコクへ遠征したU-13。ことし2月の提携以来、交流

の深まるタイプレミアリーグの関係者の尽力によって、スムーズに出国。翌日の7月31日は午前にトレーニングを行い、午後にはムアントンユナイテッドとの試合に3-0で勝利した。

8月1日に行われた第2戦も、チョンブリFCに6-1と快勝。キャプテンのDF山本瑞樹(鹿島アントラーズ)は「皆がボールを呼び込み、パスの出し手も、相手ディフェンスラインの裏への(味方の)飛び出しに合わせて出せていることが、ゴールになっている」と、関係プレーの成果を振り返った。

最終戦となった同日のU-14 タイ代表戦は先制を許すも、相手の背後を狙う動きでチャンスをつくり、FW石岩仁(ザスバ草津)の2得点で2-1の逆転勝ち。目標としていた3戦全勝でキャンプを締めくくった。

続いてU-14が、8月14～28日に中国の雲南省昆明市へ遠征し、2012年全国青少年男子サッカー選手権に参加した。U-14が出場した少年甲組(15歳以下)には、16チームが参加。まず、8チームずつ2グループに分かれて総当たりリーグ戦を実施。U-14はグループBで、いずれも中国のチームと対戦した。

標高1,880mという高地で連日、行われた試合では、初戦で長春亜泰に敗れるなど、第4戦までは2勝2敗の成績だった。だが、第5、6戦に連勝した後、最終戦では上海選抜を1-0と破ってグループBの2位が確定し、両グループの上位2チームによる2ndステージへの進出を決めた。

U-15、U-16の海外キャンプの様子は、次号でお伝えする予定。



### U-13 Jリーグ選抜 タイキャンプ



最終戦となったU-14タイ代表との試合で、相手選手と記念撮影



### U-14 Jリーグ選抜 中国キャンプ



中国キャンプ2日目、長春亜泰戦で上野山監督の指示を聞く選手たち



U-14タイ代表を逆転で破り、3戦全勝でキャンプを終えた



U-14タイ代表戦で得点を喜ぶ選手たち



タイの味付けに最初は戸惑いながらも、次第に慣れていった



3-1で勝利した武漢選抜との試合



深夜の到着から明けて、元気に開会式に参加した選手たち



外国からのチームが同宿したホテルでの食事

